

★最新介護医療情報★

抗生物質ウイルスに効かず 理解している人 37% (共同通信社 2019.10.15 配信)

細菌が増えるのを抑える抗生物質について「風邪やインフルエンザなどの原因となるウイルスには効かない」と正しく理解している人は37・8%にとどまるとの世論調査結果を11日、内閣府が公表した。風邪などへの安易な使用が薬が効きにくい薬剤耐性菌を増やす一因となっているとされ、意識改革を促していく必要があるとされた。

感染症が治りにくくなるため、薬剤耐性菌の増加は世界中で問題になっている。内閣府は初めて調査を行い、1667人が回答した。

薬剤耐性菌について「知っている」と回答したのは49・9%だった。知っていると答えた人の中でも、抗生物質を正しく飲まない、薬剤耐性菌が体中で増える恐れがあることを認識している割合は53・7%にとどまった。

抗生物質を処方されたときに、医師や薬剤師の指示通り量や回数、期間を守って飲まないことがあると答えた人は13%だった。従わない理由は「途中で治ったらそれ以上必要と思わない」が52・3%と最多で、「薬を飲むのを最低限にしたい」が35・6%、「忘れる」が34・7%と続いた。

指示を守らないと薬剤耐性菌ができやすくなるため、担当者は「出された薬は指示通りに飲みきってほしい」と呼び掛けている。

ヘアドネーション 認知度高い若者 (読売新聞社 2019.10.19 配信)

カットした髪を寄付して医療用ウィッグ(かつら)を作り、病気で髪に悩みを抱える子どもに贈る活動「ヘアドネーション」を知っている人は6割に上り、特に若者では認知度も「やってみたい」という意識も高いとの調査結果を、かつら大手「アデランス」(東京)が発表した。

調査は今年7月、全国の10代以上の男女を対象にインターネットで実施し、1030人から回答を得た。

ヘアドネーションの活動を知っていると答えた人は、全体の61%。年代別にみると、知っている人の割合は10代が67%で最も高く、次いで20代の65%だった。実施の意向を尋ねると、既に経験のある人が1%程度いたほか、「やってみたい」が29%。やってみたい人の割合は10代は36%、20代では37%と、他の年代に比べて高かった。

ハードルとして感じていることを聞くと、「髪を伸ばすのが大変」「寄付できる髪の条件がわからない」「どこで寄付できるかわからない」などが挙がった。同社が協力しているNPO法人「ジャパンヘアドネーションアンドチャリティー」(大阪)の代表理事、渡辺貴一さんは、「正確な情報を知ってもらえるよう発信していきたい」とコメントしている。

地域ルピナス講習会のお知らせ

第26回城東地域リハビリ勉強会

⇒糖尿病に対するアプローチ

開催日：令和元年11月15日(金)

時間：午後6時30分～午後7時30分

場所：城東区民センター 会議室3

講師：ルピナス理学療法士 白石太郎



第37回忠岡地域リハビリ勉強会

⇒呼吸理学療法と栄養について

開催日：令和元年11月22日(金)

時間：午後6時30分～午後7時30分

場所：忠岡町文化会館 地下会議室

講師：ルピナス理学療法士 池辺晃子

第67回東大阪地域リハビリ勉強会

⇒在宅で関わる呼吸器疾患について

開催日：令和元年12月19日(木)

時間：午後6時00分～午後7時00分

場所：東大阪市立東体育館 第三研修室

講師：ルピナス理学療法士 池田遼

